



8月号(No.5)

2025年7月18日

帝京大学小学校だより

帝京大学小学校

生成AIの活用

帝京大学小学校 校長 石井卓之

5月12日、全都立学校で生成AIを活用した学習が始まるという報道がありました。導入する「都立AI」は、入力にはAIに学習されず、不適切なやり取りのフィルタリングを行うなど安全な環境下で、必要な資質・能力の育成を図るとのことです。

私は大学で論文指導をしています。生成AIを活用して多様な視点からプロットを立て、推敲する過程で自分らしいオリジナルの論を追記することで、質の高い論文を書き上げている学生がいます。一昔前なら「機械に頼らずもっと自分の頭を使って書きなさい」、「楽をするな」などの指導が入りそうですが、今は生成AIにどれだけ適正な質問ができるか、「プロンプト」の作り方を学ぶことが重要となっています。

生成AIは「例え話」が得意だそうです。歴史が嫌いな子どもたちに、現代風のアレンジをすると授業は変わるかもしれません。例えば、「長篠の戦いをアイドルが売れていくプロセスで例えて」と質問すると

- ・織田信長は新進気鋭のアイドルグループ事務所の社長兼敏腕プロデューサー。メディア（情報）と最新技術（鉄砲隊）を駆使してアイドルを売り出す戦略家。
- ・武田勝頼は、元祖系アイドルを擁する大手事務所の社長。かつての人気グループ（信玄時代の武田軍）を引き継ぐ。実力派だが時代に合っていない売り出しを継続して衰退傾向。
- ・両事務所が芸能界の覇権をかけて激突。
- ・AKB商法、坂道戦略、K-POP式育成システムにもつなげて展開できますよ
- ・興味があれば、続きも考えますか？

本校6年の白石教諭に伝えたところ、実際に授業に活用してみたそうです。6年生の反応は今一步とのことでした。色々なチャレンジをしていくうちに、よりよい活用方法が見つかると考えています。

本校でも、教育用の生成AIを活用しています。例えば、Class cloudというソフトには、「くらすけ」という教育用生成AIがあり、目標を立てることで困っていると「お手伝いしますか？」というようにサポート機能が働き子どもたちを支援します。また英語の授業でも、4年生から6年生にAIスピーキングアプリを活用した取り組みを試行として始めています。家庭でもAIと英会話ができるとともに、英語科の安達教諭によるとロボットが好きな子どもが、「学校では話に乗ってくれる人がいないが、アプリは一生懸命に話に乗ってくれてうれしい。」ということ伝えてくれた子もいたそうです。

新しい取り組みは、初めからうまくはいきません。課題があるから取り組まないではなく、課題をどのように解決しながら取り組んでいくのが重要だと考えています。もちろん、子どもの安全や人権等への配慮は「いの一番」ですので、そこに課題がある場合は解決できるまでは取り入れることはありません。

クラスルームの夏休みのお知らせにも載せましたが、東大、帝京大が合同で行う地球温暖化防止へのアクションの第1回に帝京大学小学校の子たちも参加しませんかとお誘いがありました。Nコンと重なりますが、興味があればQRコードから申し込んでください。また、内容等の質問もQRコードでできます。

君のアイデアが学校を変える！
学校の気温を
3℃下げよう！

夏の校庭って暑くてイヤになっちゃうよね
学校のいろんな場所の
気温を測って、地域が涼しく
なるアイデアをみんなで
提案しよう！

日時：8月1日（金）10時～14時
場所：帝京大学八王子キャンパス
帝京大学小学校
持ち物：水筒、お弁当
主催：帝京大学
司会進行：松本美奈・帝京大学客員教授
ゲスト：藤原幹雄・東京大学教授
申し込み、問い合わせはQRコードから→

参加無料

職員室の窓

セカンドスクールでは、4年生が3年生を優しくリードしてくれました。布団の片付けを進んで行ったり、ヘルメットの着脱を手伝ったりと、上級生として頼もしい姿が多く見られました。最終日には、学んだことや新しい発見をまとめてグループごとにプレゼンを行い、4日間の成果を堂々と伝えることができました。



《教諭 4年 担任》